

榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 1996年度

榛原町文化財調査概要 19

1998

榛原町教育委員会

棟原町内遺跡発掘調査概要報告書 1996年度

棟原町文化財調査概要 19

1998

棟原町教育委員会

例　　言

- 1 本書は、奈良県宇陀郡榛原町内に所在する「榛原町内遺跡」の発掘調査概要報告書（榛原町文化財調査概要19）である。
- 2 調査は、平成8年度（1996年度）国庫補助事業・県費補助事業として榛原町教育委員会が実施し、平成8年7月5日に着手し、平成9年3月31日に終了した。なお、本書の刊行は、平成9年度（1997年度）事業として実施したものである。
- 3 現地調査は、奈良県教育委員会の指導のもと榛原町教育委員会技師 柳澤一宏が担当した。
- 4 調査組織および関係者は、各本文中に詳しい。
- 5 各遺跡の調査記録、遺物等は榛原町教育委員会において保管している。
- 6 本書の執筆・編集は柳澤が行った。

目 次

I 埋蔵文化財発掘調査の概要	1
II 位置と環境	5
1 地理的環境	
2 歴史的環境	
III 福地陣屋跡発掘調査概要	7
1 調査の契機と経過	
2 位置と環境	
3 遺跡の調査	
4 まとめ	
5 抄録	
IV 沢遺跡第6次発掘調査概要	13
1 調査の契機と経過	
2 位置と環境	
3 遺跡の調査	
4 まとめ	
5 抄録	

I 埋蔵文化財発掘調査の概要

権原町では、1968年（昭和43年）以降、土木工事等の開発行為にともなう埋蔵文化財の発掘調査が本格的に行われている。毎年、町内各所で多くの開発行為が計画されており、埋蔵文化財の取り扱い等については、事業者等とその都度、協議を重ねているところである。1996年度（平成8年度）に権原町教育委員会が取り扱った遺跡有無確認踏査願、埋蔵文化財発掘届・通知、発掘調査等は表1のとおりである。また、1996年度（平成8年度）に実施した発掘調査等は表2・図1のとおりである。なお、本書には国庫補助事業・県費補助事業として実施した沢遺跡（6次調査）、福地陣屋跡の2遺跡の発掘調査概要を収録している。

表1 1996(平成8)年度発掘届・発掘調査件数等一覧表

遺跡有無 確認踏査願	埋蔵文化財 発掘届 発掘通知	埋蔵文化財 発掘届・通知 合計	発掘調査 (権原町担当)	立会調査 (権原町担当)	測量調査 (権原町担当)	調査件数 合計	
1	6	0	6	4	5	0	9

摘要 種別	遺跡名	所在地	調査原因	原因者	工事面積	措置等
遺跡有無 確認踏査願	萩原孤ヶカ 遺跡	権原町萩原	宅地造成工事	三晃住宅 株式会社	44920m ²	1991年、 発掘調査済
埋蔵文化財 発掘届・通知	丹切遺跡	権原町萩原	共同住宅建設工事	中谷輝久	1272m ²	発掘調査
	丹切遺跡	権原町萩原	個人住宅建設工事	豊田廣一 豊田泰弘	458m ²	立会調査
	沢遺跡	権原町沢	個人農地改良工事	森岡茂雄	約2000m ²	発掘調査
	福地陣屋跡	権原町福地	個人住宅建設工事	桑原正	165m ²	発掘調査
	清水谷遺跡	権原町萩原	個人農地形状変更工事	谷口尚道	1082m ²	立会調査
	(足立所在遺跡)	権原町足立	個人住宅建設工事	高美良之	548m ²	立会調査

表2 1996(平成8)年度公報調査第一覧表

番 号	地 名	地 理 的 特 徴 及 其 他 要 因 子	地 名	地 理 的 特 徴 及 其 他 要 因 子	地 名	地 理 的 特 徴 及 其 他 要 因 子	地 名	地 理 的 特 徴 及 其 他 要 因 子	地 名	地 理 的 特 徴 及 其 他 要 因 子
面 積 (ha)	主 要 資 源	主 要 資 源	主 要 資 源	主 要 資 源	主 要 資 源	主 要 資 源	主 要 資 源	主 要 資 源	主 要 資 源	主 要 資 源
1 立会調査 (未登載)	1-96 (未登載)	井之谷排水 (井之谷中世耕作 地)	新町下伏 原外	195・5・29~ 195・10・9	土都田排水工事 (原町井之谷排水工 事)	195・10・21~ 195・11・1	土都田排水工事 (中谷排水)	195・3・1~ 195・3・31	土都田排水工事 (横内流域)	195・3・1~ 195・3・31
2 立会調査	15-B-8	片切路	新町原 元原	195-1	新町原 元原	195-1-21~ 195-11-1	新町原排水工事 (中谷排水)	195-4-11	新町原排水工事 (横内流域)	195-4-11
3 立会調査	2-54	片切路 (6九町)	新町原	90	新町原	195-1-21~ 195-3-31	新町原排水工事 (横内流域)	195-4-11	新町原排水工事 (横内流域)	195-4-11
4 立会調査 (未登載)	10-51	新町原路	新町原 元原	195-1	新町原路 (未登載)	195-3・1~ 195-3・31	新町原排水工事 (横内流域)	195-4-11	新町原排水工事 (横内流域)	195-4-11
5 立会調査 (未登載)	1-96 (未登載)	片切路	新町原 元原	195-1	新町原 元原	195-6・24	新町原排水工事 (横内流域)	195-7・24	新町原排水工事 (横内流域)	195-7・24
6 立会調査 (未登載)	15-B-8	片切路	新町原 元原	42	新町原 元原	195-8・24	上渡工事 (横内流域)	195-9・24	上渡工事 (横内流域)	195-9・24
7 立会調査	2-54 10-51	片切路	新町原	95	新町原 元原	195-9・24	木田排水工事 (谷口南)	195-10・28	木田排水工事 (谷口南)	195-10・28
8 立会調査	1-21 12-D-9	林木治陸 (未登載)	新町原 元原、 205	203、 204、 205	新町原 元原	195-11・1	新町原排水工事 (横内流域)	195-11・1	新町原排水工事 (横内流域)	195-11・1
9 立会調査	2-32 15-B-26	未定 (足立新井路)	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定

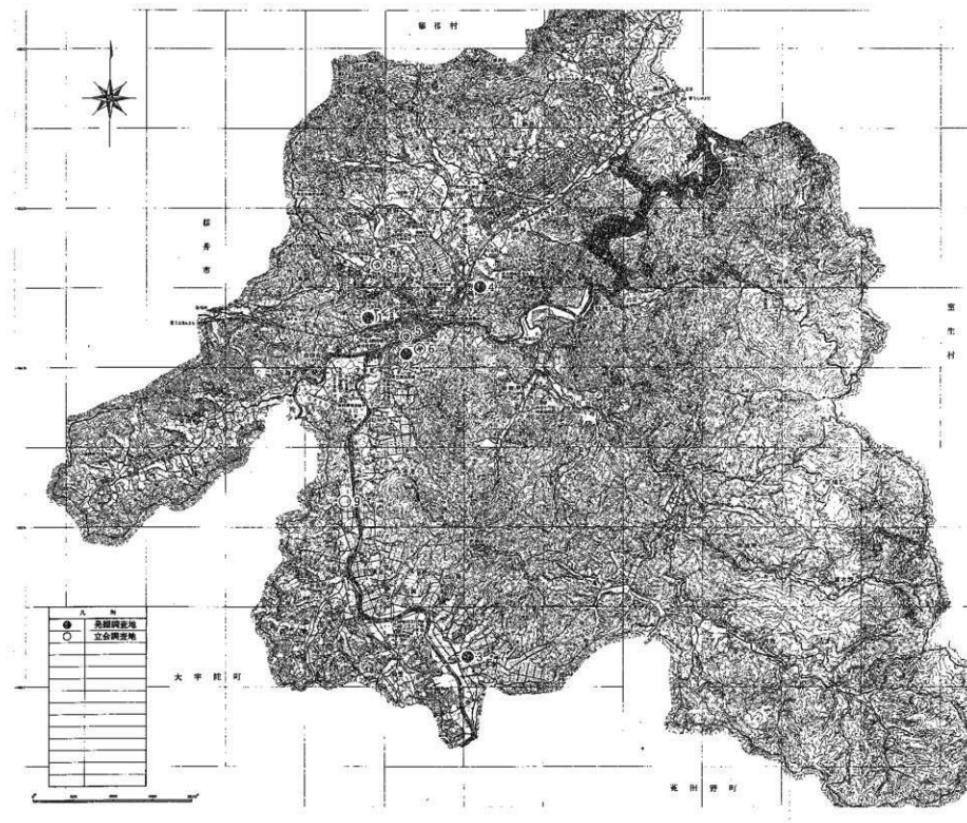


図1 1996(平成8年)年度調査流域位置図(番号は表2と一致)

II 位置と環境

1 地理的環境

奈良盆地の東方の山間部に宇陀と呼ばれている地域が広がっており、現在の行政区画では大字宇陀町、橿原町、菟田野町、室生村、曾爾村、御杖村からなっている。この宇陀地方は地理的な状況から西半と東半に大別でき、一般に前者が「口宇陀」、後者が「奥宇陀」とも総称されている。口宇陀は標高300~400mの丘陵とこの間を縫って流れる中小河川が複雑に入り乱れ、これらが幾つもの小盆地や浅い谷地形を形成しており、口宇陀盆地とも総称され、大字宇陀町、橿原町、菟田野町の大半がここに含まれている。これに対し、東部の奥宇陀は室生山地、高見山系などの峻しい山々が連なっており、奥宇陀山地とも呼称されている。口宇陀地域の主要河川は、西に宇陀川、東に芳野川があり、幾つもの小河川を合わせながら橿原町萩原で宇陀川本流となる。橿原町を後にした宇陀川は三重県で名張川となり、木津川、淀川を経て遠く大阪湾へと至り、大和川流域とは水系を異にしている。

橿原町の周囲は概ね標高約400~800mの山塊に囲まれ、東は高城岳、三郎岳、室生村へと通じる石割峠があり、北は大和高原とを区切る額井岳、香醉山、鳥見山などの山々が屏風状に連なり、宇陀の地を見下ろしている。西は桜井市や大字宇陀町、南は菟田野町となってしまっており、丘陵をもってそれぞれの境界としている。地形的にみれば橿原町の西半は口宇陀的、東半は奥宇陀的な様相を呈している。

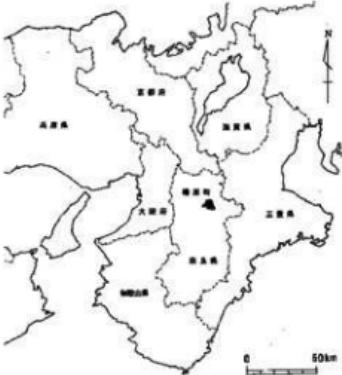


図2 橿原町位置図

2 歴史的環境

宇陀地方は、『古事記』、『日本書紀』をはじめとする多くの文献にも度々登場し、軍事・交通の要衝であったことを窺い知ることができ、今に残る地名や伝承なども多い。また、橿原町を流れる宇陀川・芳野川・内牧川流域の各所には多くの遺跡が分布しており、発掘調査・分布調査を重ねるたびにその数も増加している。

これまでに、宇陀郡内では3点の有舌尖頭器が出土しており、うち、2点が町内から出土していることが明らかとなっている。これらは、旧石器時代末期から縄文革創期に求めることができ、この頃が宇陀の歴史の初源であろう。

縄文時代の遺跡の多くは、先述の河川流域の河岸段丘上、尾根上、谷部等に認められる。これら

の遺跡の多くは、採集遺物によっているため、その実態が必ずしも明らかとはいえない。また、発掘調査によって確認された場合でも、数点の遺物が出土しているのみで遺跡の全容が明らかになったものは少ない。このような状況のもと高井遺跡では、早期から後期にわたる集落跡であることが発掘調査によって明らかとなっている。

弥生時代前期から中期の遺跡は、沢遺跡、下城・馬場遺跡、大貝ヒジキ山遺跡、上井足北出遺跡をはじめとする数遺跡が知られているにすぎないが、後期の遺跡は比較的多く認められる。これらは、地理的制約のためか奈良盆地で見られるような大規模な集落ではないが、次代の古墳時代へと継続するものが多い。

弥生時代後期から古墳時代前期の墳墓である台状墓は、これまでに野山遺跡群、能峰遺跡群、下井足遺跡群、大王山遺跡群、キトラ遺跡などで確認されている。この頃の集落としては、戸石・辰巳前遺跡、高田垣内遺跡、能峰中島遺跡、上井足北出遺跡、谷遺跡などを挙げることができ、谷部を流れる川跡や竪穴式住居跡などが確認されている遺跡もある。

古墳時代前期の古墳は谷畠古墳、中期の古墳としては高山1号墳、シメン坂1号墳、前山1号墳などが発掘調査によって明らかにされている。後期となると古墳数は著しく増加し、ある程度の粗密があるものの、町内各所の尾根上には数基から十数基単位で分布している。5世紀後半からから盛期を迎える古墳群は野山古墳群、沢古墳群、栗谷古墳群、大王山古墳群、丹切古墳群などが知られている。6世紀後半以降、今までの木棺直葬墳にかわって横穴式石室墳が築造されるようになり、丹切古墳群、能峰古墳群、石田古墳群、大貝古墳群、西谷古墳群をはじめ、多くの古墳が発掘調査によって状況が明らかになっている。

横穴式石室にかわる新しい葬法として火葬墓が登場してくるが、最も代表的なものとして、壬申の乱で活躍した將軍のひとりで渡来系氏族でもある文祢麻呂の墳墓がある。現在、墳墓は史跡、墓誌などの出土品は国宝となっている。

古代末には宇陀においても莊園の開発が急速に進み、このなかで台頭してきた在地武士団は、興福寺、春日社などの支配のもと各自が發展を続けた。この武士団は「宇陀三人衆」の秋山氏・沢氏・芳野氏に代表され、彼らは秋山城、沢城、芳野城をそれぞれの居城としていた。また、小規模な城館跡も各所に点在しており、城館の廃絶後、中世墓地と化したところもある。いわゆる中・近世墓地は、まとまったところでは、大王山遺跡、能峰遺跡群、八咫鳥遺跡群、野山遺跡群などが発掘調査により明らかにされている。

(参考文献等省略)

III 福地陣屋跡発掘調査概要

1 調査の契機と経過

(1) 調査の契機と経過

福地陣屋は、近世、織田氏の知行によるところの陣屋である。その範囲等は明確でないものの、「城館跡」として『棟原町遺跡分布地図』1993年度に遺跡地図番号1-61として登載(図3)しているところである。この範囲の一部において、個人住宅建設工事が実施されることとなり、1997年1月には埋蔵文化財発掘届が提出された。関係機関等が遺跡の取り扱い・発掘調査の実施方法等を協議した結果、棟原町教育委員会が発掘調査を担当することとなり、調査は、建物・遺物の状況等を把握する試掘調査を行い、その状況によっては、改めて本調査を実施することとした。現地調査は、1997(平成9)年3月7日から3月31日まで断続的に実施した。

調査関係者(1996年度～1997年度)は、次のとおりである。

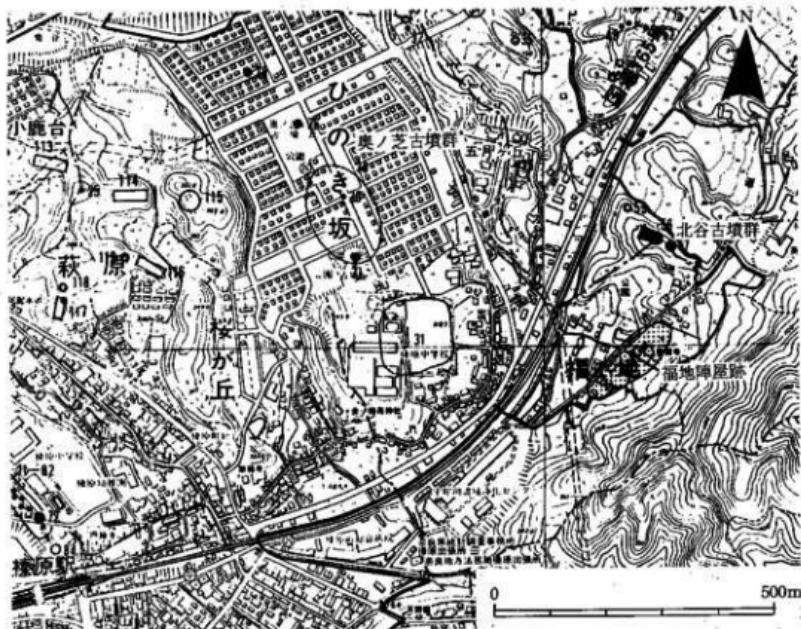


図3 福地陣屋跡位置図

調査主体 棚原町教育委員会

調査担当課 棚原町教育委員会 社会教育課（～1997年11月）

生涯学習課（1997年12月～）

調査担当者 棚原町教育委員会 社会教育課 技師 柳澤一宏

調査補助員 井上好美、南信子、奥野信子、岡祐二

調査作業員 太田政信、棚原栄子、中谷喜代子、柳沢雅子

調査指導 奈良県教育委員会 文化財保存課

(2) 現地調査日誌抄

1997年（平成9年）

3月7日

第1・2トレンチ掘り下げ。

3月10日

第1・2トレンチ掘り下げ、精査。

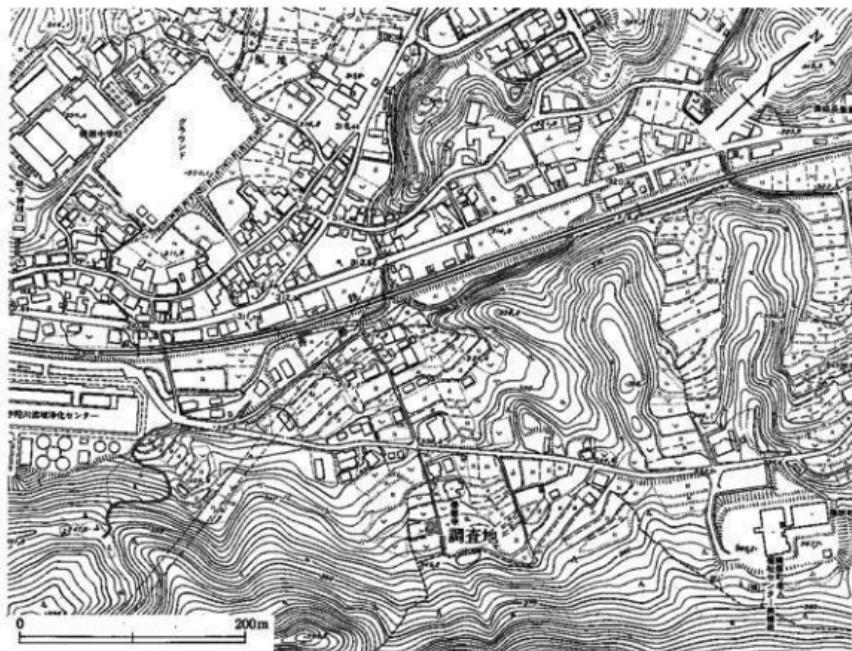


図4 福地陣屋跡調査対象地位置図

3月11日

第1・2トレンチ精査、実測図等作成。

埋め戻し。

3月31日

測量図補筆。周辺踏査。

2 位置と環境

本遺跡は、株原の市街地の東部にあたり、当地の高峰のひとつである福地岳の西北斜面の標高約336m～350mに位置する。遺跡の範囲は、概ね東西200m、南北80mとしているが、今後の発掘調査によっては、その範囲を修正していく必要があると考えている。調査地は、その範囲の東南端の一部にあたる標高約344mの畠地である。遺跡及びその周辺は、近年、小規模開発が多く行われており、今後も同様の傾向が進んでいくと思われる地域である（図3・4、図版1・2）。

遺跡の北約200mには、北谷古墳群（横穴式石室墳、1号墳＝前方後円墳、2号墳＝円墳）がある。眼下には、近世に伊勢参道として発達した伊勢表街道（青越道）が東西に通り、現在は国道165号線や近畿日本鉄道大阪線が主要交通路としてその役割を担っている。

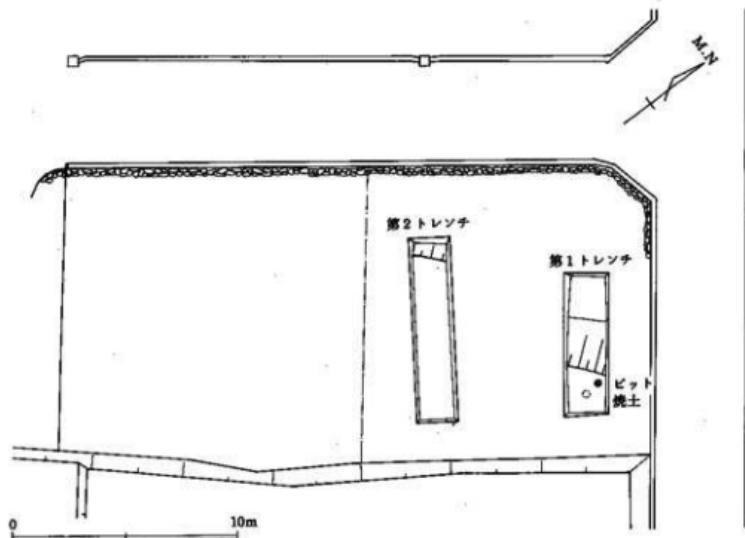


図5 福地陣跡調査位置図

3 遺跡の調査

(1) 調査区と基本層序

工事予定地（面積：165m²）のうち、住宅が建設される敷地内に南北方向のトレンチを2箇所設定し、東側を第1トレンチ、西側を第2トレンチとした（図5、図版2）。

基本層序は、第1層が褐色の耕作土、第2層が黒褐色土、第3層が褐色土、第4層が暗褐色土、第5層が暗褐色土、第6層が明黄褐色の様原石塊を含む基盤層となっており、第3・4層は、落ち込み遺構状の堆積土である（図6）。

(2) 検出遺構

調査面積が限られていたものの、南から北へと緩やかに傾斜する地山面を検出した。第1トレンチ南端では径25cm、深さ17cmのピット1基、径約30cmの円形の焼土面を確認したが、第2トレンチでは明確な遺構は認められない（図5・図版3）。

(3) 出土遺物

須恵器（甕）、瓦器（碗）、土師器（皿、土釜）、瓦質土器（擂鉢）、磁器、陶器などが出土しているが、細片が多い。この他、チャート片、磨石、鉄釘が認められる。それぞれの具体的な時期を明らかにできないが、第2層出土の瓦器碗（図7）は、復元口径15cm、現存高2.5cmで、松本編

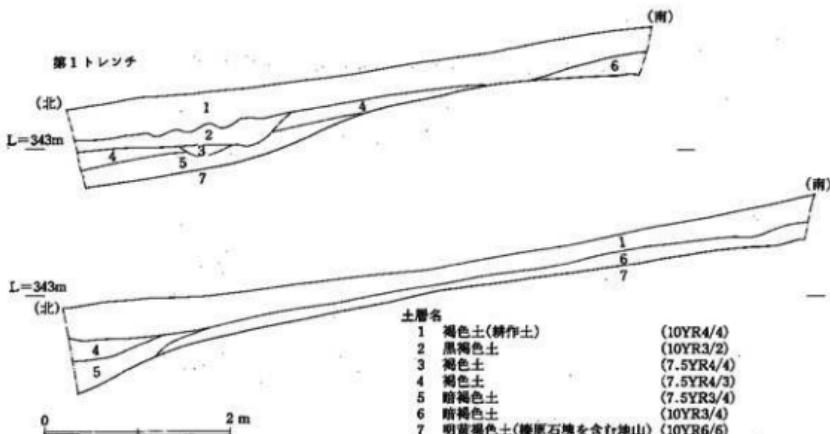


図6 福地陣屋跡土層断面図

年の井戸—20期に比定でき、12世紀後葉～13世紀中葉の範疇でとらえることができる。磨石（図8）は欠損品ではあるものの、全面にわたって磨耗痕が認められる。現存長4.5cm、幅5.1cm、厚さ3.2cmで、石質は地元に産する流紋岩質溶結凝灰岩、いわゆる「榛原石」である。

4 ま と め

福地陣屋跡の発掘調査は今回が最初であり、端緒についたばかりで、その範囲、遺構・遺物の状況等は明確でない。今回の調査地では、僅かではあるものの先述の遺物を検出することができ、当地の土地利用についての各時期を明らかにすることができた。周辺には中世以降の遺構・遺物が広がっていると推定されるが、その詳細については、今後の課題である。

地元では、陣屋跡の中心部分は、遺跡の範囲としている西端部分と伝承されており、陣屋が廃棄された時には、石材を搬出し自家の石垣等に転用したという。この陣屋があったとされる場所は、既に住宅が密集した状況となっており、現状ではその状況は明らかではない。

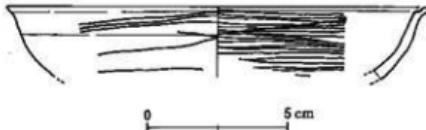


図7 福地陣屋跡出土遺物実測図(1)

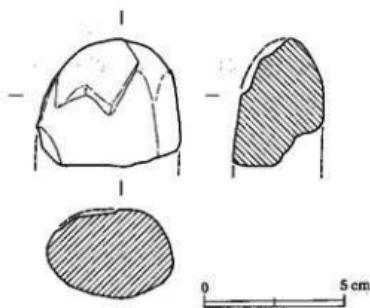


図8 福地陣屋跡出土遺物実測図(2)

5 抄 錄

遺 跡 名	福地陣屋跡（榛原町遺跡地図番号1-61、奈良県遺跡地図番号一未登載一）
調 査 地	奈良県宇陀郡榛原町大字福地178番地の1
遺 跡 立 地	標高約336m～350mの山塊斜面
遺 跡 規 模	南北約80m、東西約200m、面積約16,000m ²
種 別	近世の城館跡 縄文時代～古墳時代・中世～近世の遺物散布地
調 査 主 体	榛原町教育委員会
調 査 原 因	個人住宅建設工事（事業者：桑原 正）
現地調査期間	1997年(平成9)3月7日～1997年3月11日・3月31日
調 査 面 積	27m ²
検 出 遺 構	ピット
検 出 遺 物	磨石、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、鉄釘
資料等の保管	榛原町教育委員会（文化財整理室）

— 整理箱0.5箱 —

註1) 松本洋明他『十六面・薬王寺遺跡』 奈良県橿原考古学研究所 1988

IV 沢遺跡第6次発掘調査概要

1 調査の契機と経過

(1) 調査の契機と経過

沢遺跡は奈良県宇陀郡榛原町大字沢に位置し、現状は大半が畠地、一部が宅地や道路となっている。この遺跡は1955年（昭和30年）の沢集落内の町道拡幅工事に伴って多くの遺物が出土したことによってその存在が知られるようになり、その後、1963年（昭和38年）に第1次調査、1987年に第2次調査が行われている。榛原町教育委員会では、1991年に個人住宅建設工事に伴う発掘調査（第3次調査）、1992年に個人の農業用倉庫建設工事に伴う発掘調査（第4次調査）、1996年に個人住宅及び倉庫建設に伴う発掘調査（第5次調査）を実施している。

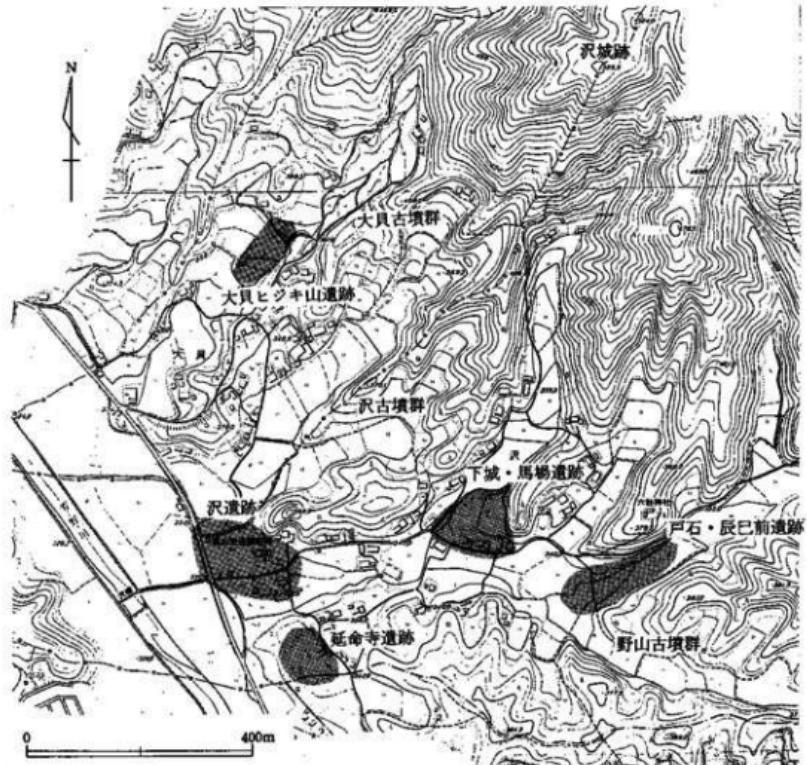


図9 沢遺跡位置図

第5次調査地に東隣、遺跡中央部と推定している標高約333mの畑地において、個人の農地改良工事が計画され、1997(平成9)年1月には「埋蔵文化財発掘届」が提出された。関係機関等が遺跡の取り扱い・調査の実施方法等について、協議を行った結果、榛原町教育委員会が発掘調査を担当することとなった。現地調査は1997(平成9)年1月27日から同年3月31日にかけて実施し、概要報告書刊行等の整理作業は、次年度に行うこととした(現地調査日誌抄は省略)。

調査関係者(1996年度～1997年度)は、次のとおりである(敬称略)。

調査主体	榛原町教育委員会
調査担当課	榛原町教育委員会 社会教育課(～1997年11月) 生涯学習課(1997年12月～)
調査担当者	榛原町教育委員会 社会教育課 技師 柳澤一宏
調査補助員	井上好美、南信子、奥野信子、岡祐二
調査作業員	太田政信、田中昇、中尾一三、森岡茂雄、横山寿介、樋原栄子、樋原美智子、北中美代子、坂本貞子、砥出愛子、砥出万純、中谷喜代子、森岡ミサヲ、柳沢雅子、山田オトエ
基準点測量等	日本テクノ株式会社
空中写真撮影	株式会社アイシー
調査指導	奈良県教育委員会 文化財保存課、奈良県立橿原考古学研究所、小泉俊夫
調査協力	森岡茂雄、山崎工務店

2 位置と環境

沢遺跡は芳野川東岸の標高331.5～335.5mの台地状の畑地に位置し、現在の芳野川からは約150～300mの距離をはかる。遺跡の北方、南方、西方の三方は芳野川に灌ぐ小支流である谷川や芳野川の氾濫原となっている。地形および遺物の散布状況から遺跡の範囲を推察すれば、氾濫原より約1～2m高くなっている畑地が中心となってくる。遺跡の東方には沢城跡から南西にのびる丘陵先端部がひかえ、この山裾までが遺跡の範囲と考えられる(図9・10、図版4)。

沢の谷川を挟んで南約200mの尾根上には弥生時代後期の住居跡や古墳時代中期末～後期初頭の古墳、中世の建物遺構(寺院跡?)などが確認されている延命寺遺跡、約400m東方には纏文晚期～弥生時代前期・中世の遺物が出土している下城・馬場遺跡、さらに東方には古墳時代前期の戸石・辰巳前遺跡や古墳時代前期～後期の野山古墳群などの遺跡が確認されている(図9)。

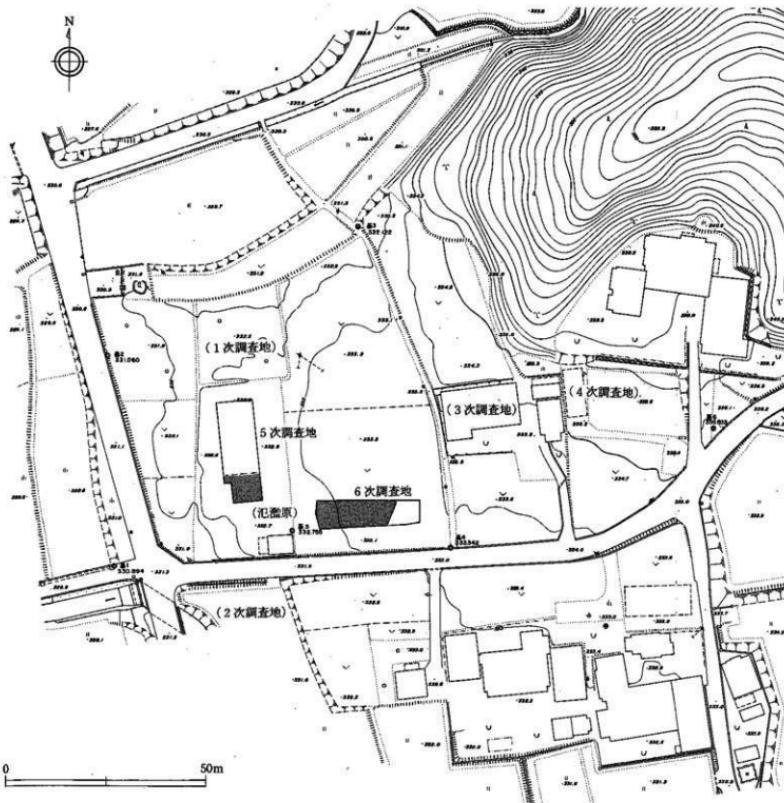


図10 洪溢地調査位置図

3 遺跡の調査

(1) 調査区と基本層序

今回の調査地対象地は、遺跡の中心部分の畠地で、今年度は、その南端に東西方向のトレンチ（長さ約25m、幅約7m）を設定した（図10、図版4）。

調査区の東端と西半とでは、基本層序が大きく異なり、東端では弥生時代後期、縄文時代後期の包含層が明瞭に認められるのに対し、西半では弥生時代後期までの砂の堆積が著しい。東端での基本土層は1層が耕作土、2層が底土、3層が暗褐色土等、4層が灰オリーブ色土等、5層が黒褐色粘質土・暗灰黄色粘質土等となっている。第3層からは弥生時代中期～後期の遺物が中心に出土しているのに対し、第5層からは縄文時代後期の遺物が出土している。第4層は、弥生時代の河川氾濫原の堆積土である（図11・12、図版9）。

(2) 検出遺構

遺構は3時期のものが認められ、第1遺構面では4条の溝、第2遺構面では土坑1基等、第3遺構面も土坑1基等を確認している。第1遺構面は中世、第2遺構面は弥生時代中期～後期、第3遺構面は縄文時代後期と考えている。

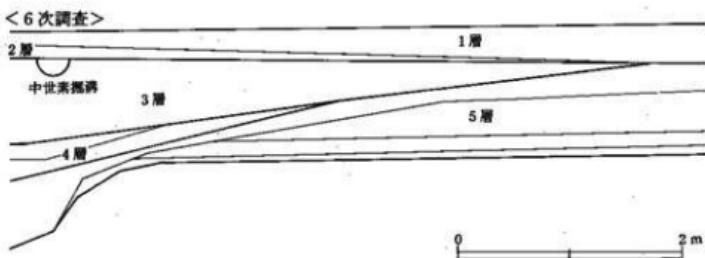


図11 沢遺跡基本土層断面模式図

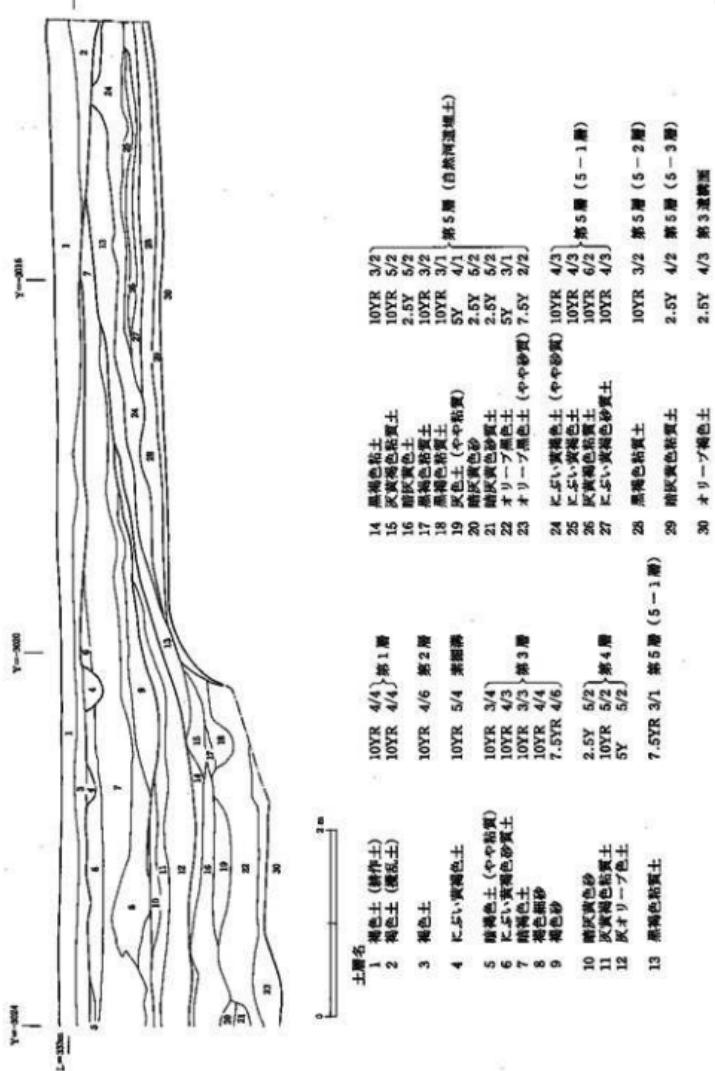


図12 施達城土壌断面図 (部分)

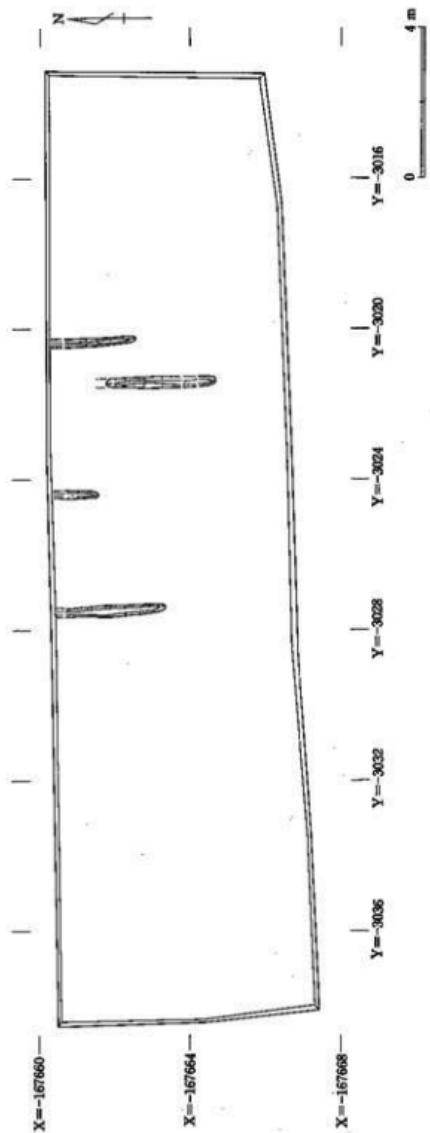


图13 沿道路第1支撑面平面图

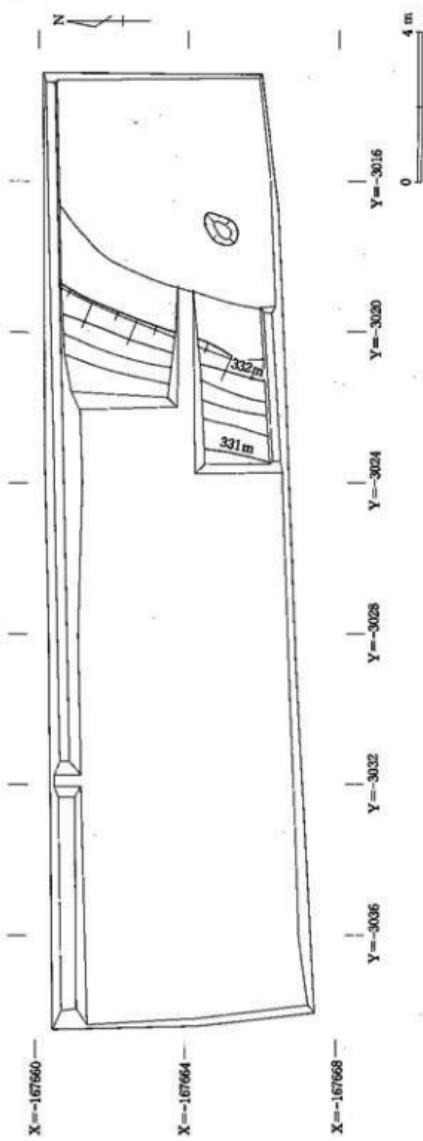


图14 测量第2层楼面平面图

①中世の遺構（図13）

第1遺構面において検出した南北方向の4条の素掘溝である。いずれもその南端部分を検出しておらず、現状での延長は0.9m～2.9m、幅0.2m～0.2m、深さ3cm～5cmである。溝の断面形態はU字状を呈する。にぶい黄褐色の埋土からは、土師器細片が出土しているが、詳細な時期は、明らかにできない。

②弥生時代の遺構（図14・15、図版4～7）

第2遺構面において検出した土坑、自然地形である。SK-01とした土坑は、長径1.1m、短径0.7m、深さ15cmの椭円形土坑である。やや砂質の黒褐色の土坑埋土からは、サヌカイト剝片1点が出土しているにすぎない。明確な時期は、明らかにできないが、層位及び出土遺物から弥生時代中期以降の所産と推定できる。

土坑の西方は、砂等の堆積が著しく、これら的一部分を掘り下げるに、第5層をベースとする落ち込み状の自然地形を検出した。この東端部分では、深さ1～1.2m、傾斜角約13度となっている（図版9）。

③縄文時代の遺構（図16～18、図版4～8）

第3遺構面において検出した土坑、自然地形で縄文時代後期のものである。SK-02とした土

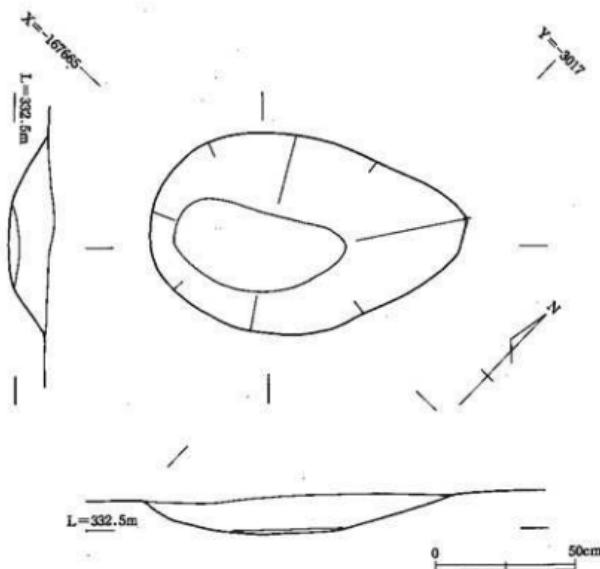


図15 沢遺跡SK-01実測図

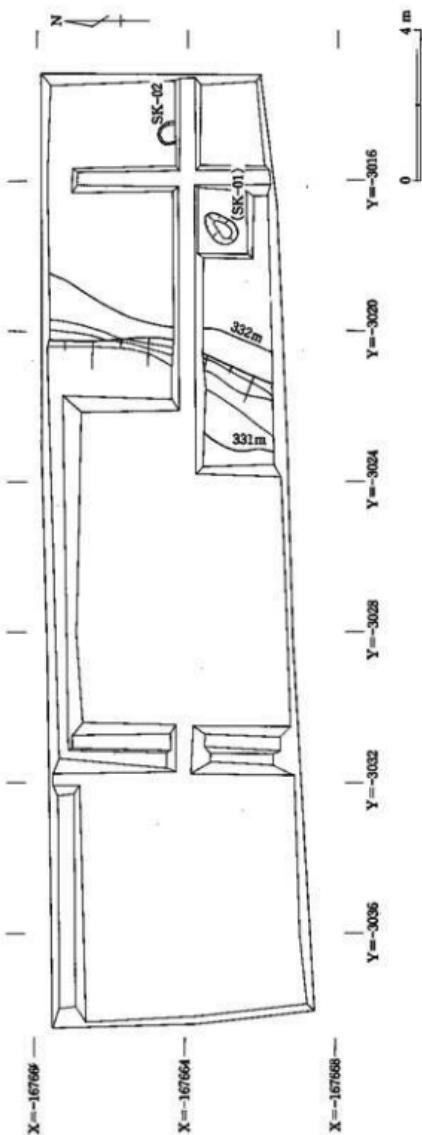


图16 沉没井第3进深面平面图

坑は、直径0.6m～0.7m、深さ約15cmの円形土坑で、黄褐色粘質土の埋土中からは縄文土器片、サスカイト剝片、炭細片等が出土している。

この他、SK-02の南から南西にかけて、サスカイト片の集積が認められる。第3遺構面から若干、浮いた状況で検出していることから、本来は、第5層最下層の暗灰黄色粘質土上面に点在していたものと推定でき、接合可能なものも認められる。

落ち込み状の自然地形は、第2遺構面でもその東端部分を検出しているが、第3遺構面でもほぼ同位置にこれを確認している。この東端部分では、深さ1.1～1.3m、傾斜角約43～56度となっている（図版9）。

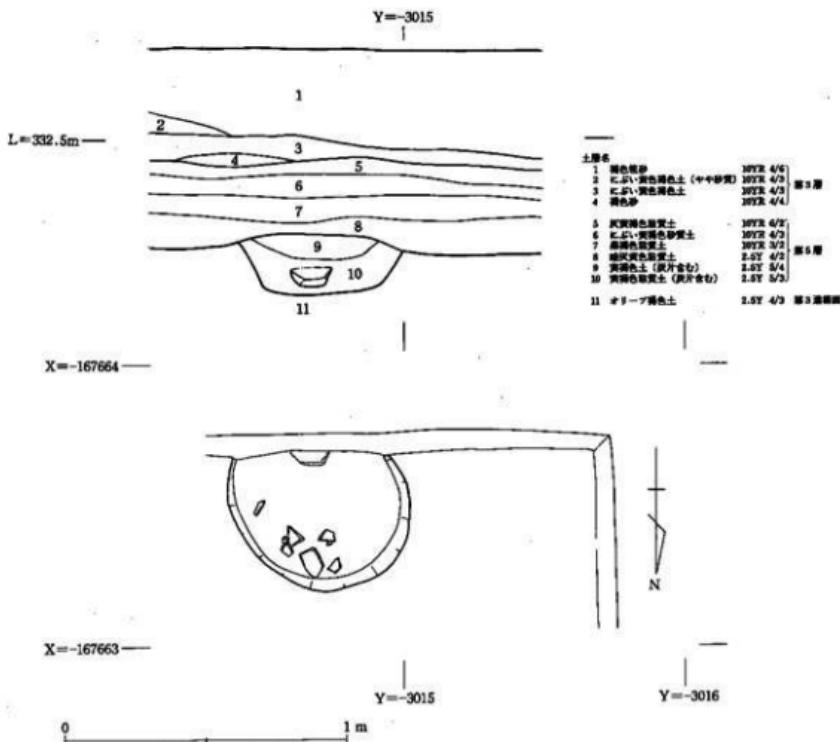
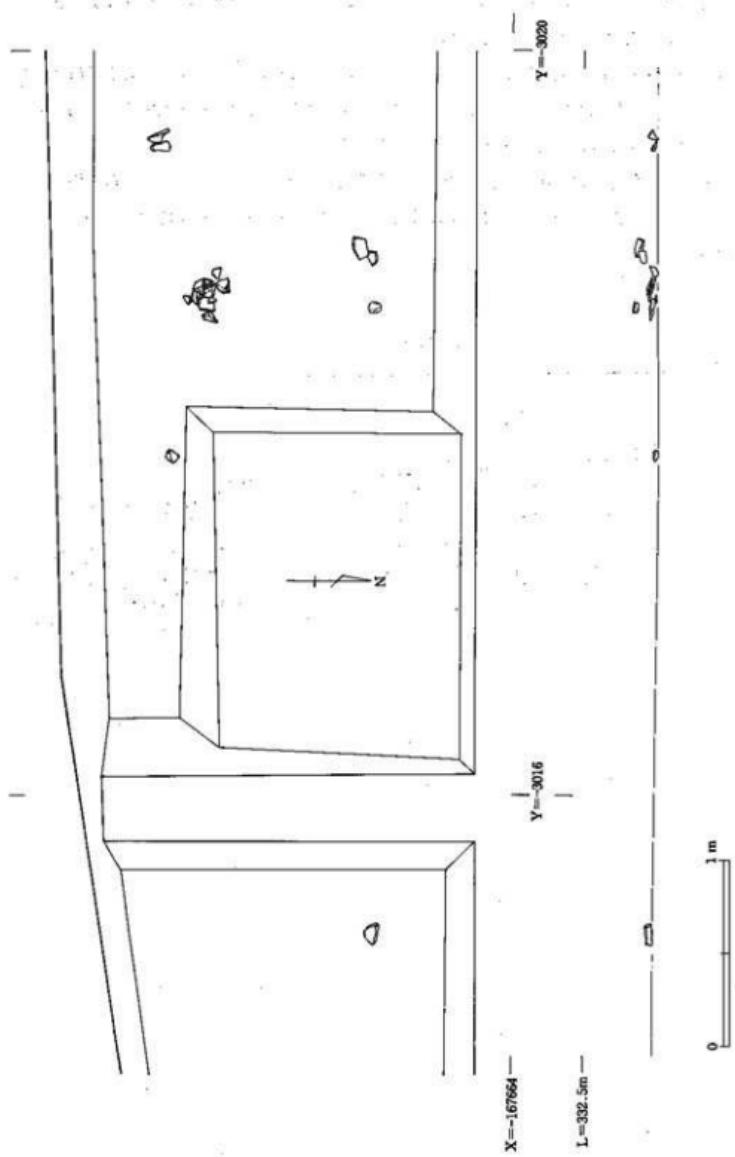


図17 沢遺跡SK-02実測図

图18 河道断第3道墙面遗物出土状况实测图



(3) 出土遺物

第3～4層からは、縄文時代後期・晚期、弥生時代中期の遺物、第5層からは、縄文時代後期の遺物が多く出土している。縄文時代の遺物としては、縄文土器（深鉢）、石鎌、石斧、サヌカイト石核、サヌカイト剝片、炭片、炭化種子などが認められる。弥生時代の遺物は、弥生土器（壺）が出土しているが、その数量は僅かである。これらその他、第1～2層からは、須恵器、土師器、瓦器等の細片も出土している。

4 まとめ

沢遺跡からは、第1次調査や採集資料等から縄文時代中期末葉から縄文時代晚期、弥生時代前期～後期の土器が出土している。なかでも縄文時代後期前葉、弥生時代中期（第III様式）～弥生時代後期（第V様式）の土器が多く確認されていることから、この頃に遺構の存在を考えていたところである。

今回の発掘調査によって、縄文時代の土坑、中世素掘溝をはじめ、縄文時代後期～弥生時代中期と推定できる旧地形（氾濫原）の一部も検出することができた。先に実施した第5次調査の成果（図10）とあわせて類推すると、弥生時代中期から後期にかけて起こった沢集落から芳野川へと灌ぐ谷川の氾濫等によって土砂が堆積し、現地形が形成されたものと考えられる。住居跡は未確認ではあるが、これまでの遺構・遺物の検出状況及び地形から調査地北隣の標高333m～334m付近の高所と推定している（図10）。中世の建物遺構の存在も考えているところではあるが、後世の耕作による削平のためか、その状況は、明らかでない。

5 抄 錄

遺 跡 名	沢遺跡（奈良県遺跡番号15-D-84、榛原町遺跡番号2-544）
調 査 地	奈良県宇陀郡榛原町大字沢980番地
遺 跡 規 模	範囲：南北約130m、東西約150m
種 別	縄文時代～中世の遺物散布地・集落跡
調 査 主 体	榛原町教育委員会
調 査 原 因	個人の農地地盤改良工事（事業者：森岡茂雄）
現地調査期間	1997(平成9)年1月27日～1997年3月31日
調 査 面 積	約160m ²
検 出 遺 構	溝、土坑、自然地形
検 出 遺 物	縄文土器、サヌカイト石核、サヌカイト剝片、石斧、石鎌、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、種子
資料等の保管	榛原町教育委員会（文化財整理室） —整理箱4箱—



写真1 作業風景

図 版

図版一
福地陣星跡



航空写真（1981年撮影）

図版二

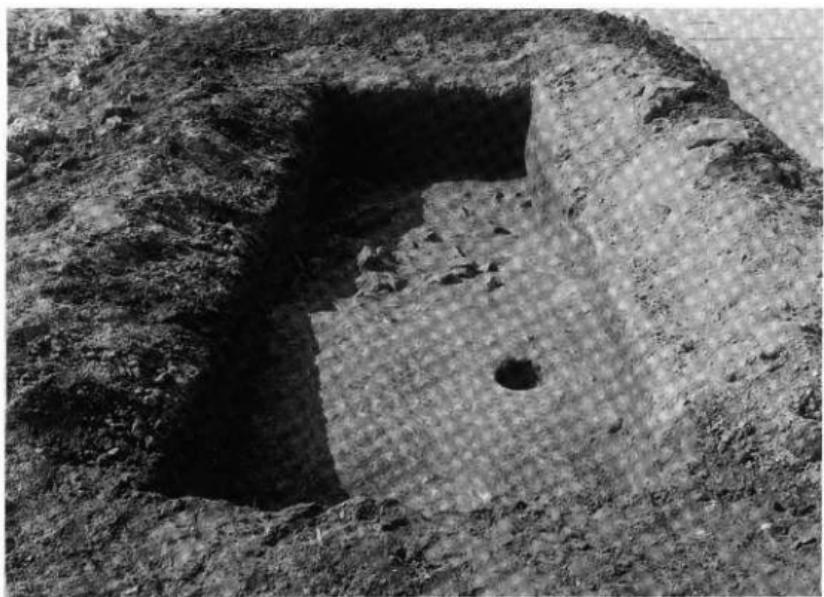
福地陣屋跡



航空写真（1981年撮影）



調査地近景（東から）



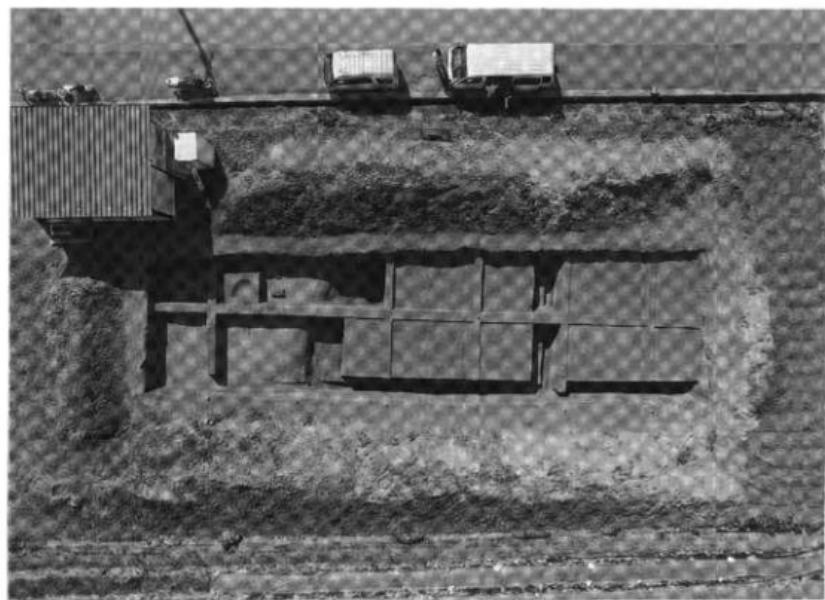
第1トレンチ（南東から）



第2トレンチ（南東から）



空中写真（西から）



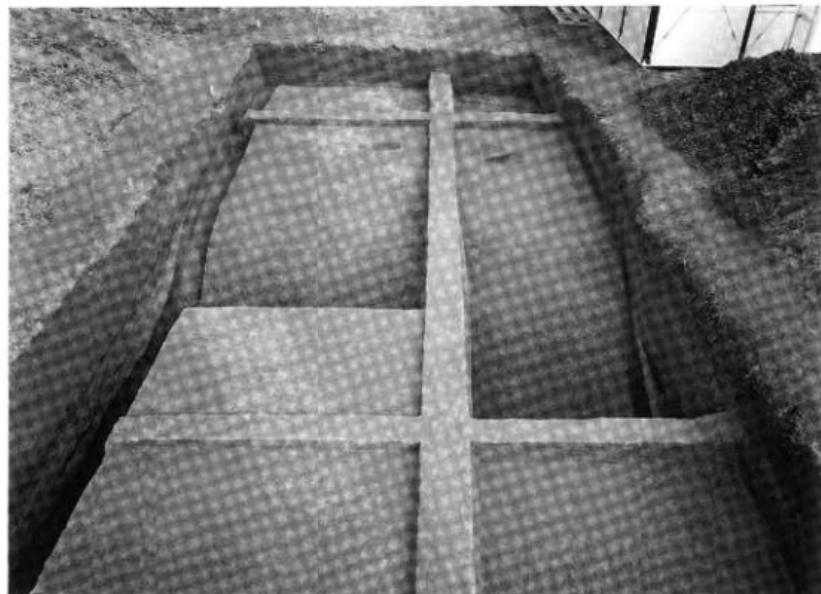
空中写真（垂直）



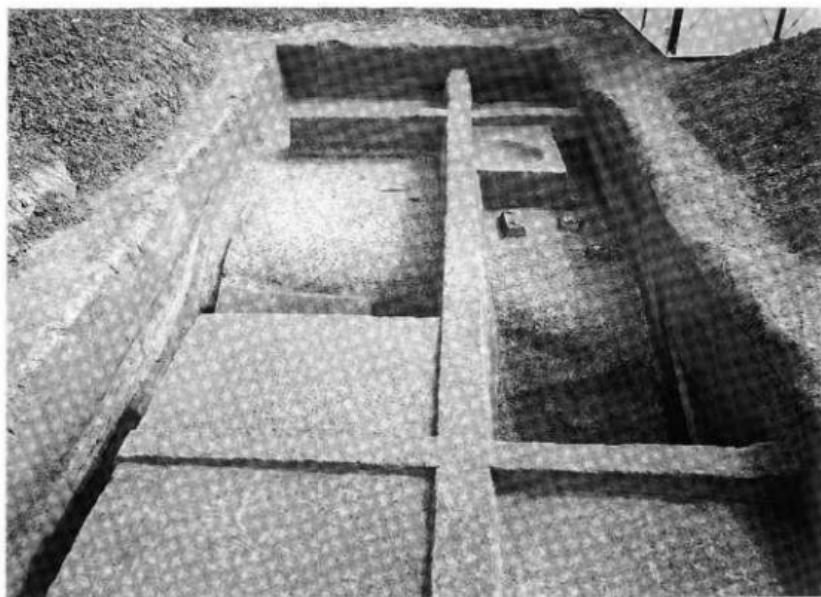
第2遺構面（東から）



第3遺構面（東から）



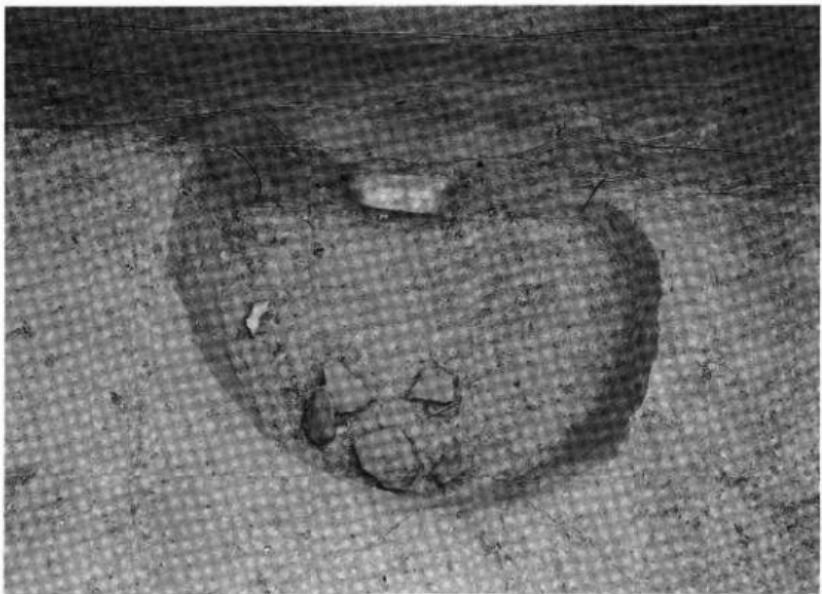
第2遺構面（西から）



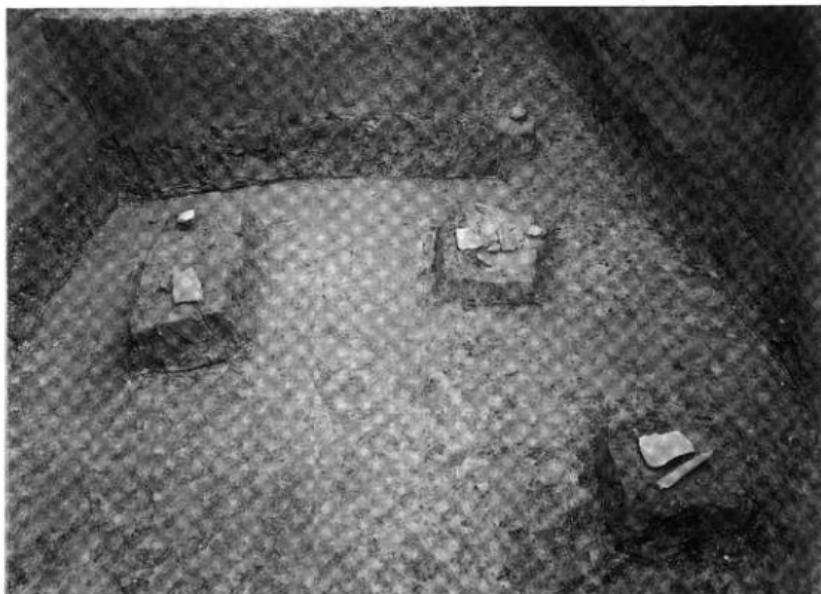
第3遺構面（西から）



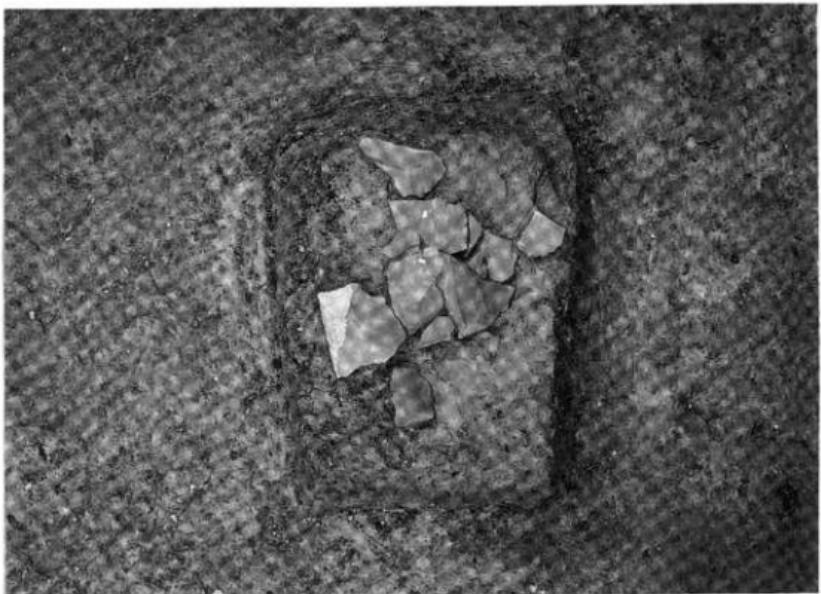
SK-01 (南から)



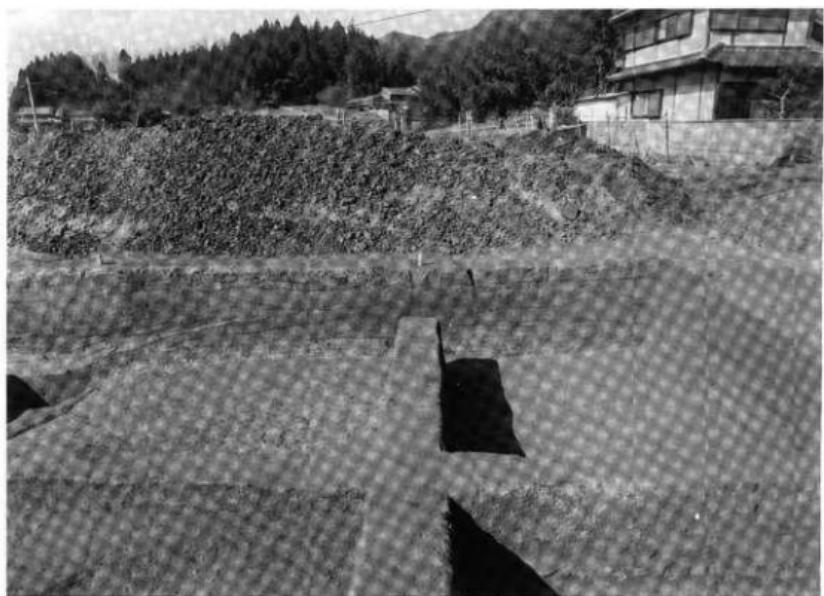
SK-02 (北から)



第3遺構面遺物出土状況（西から）



第3遺構面遺物出土状況（西から）



調査地東端土層断面（南から）



自然地形付近の土層断面（南東から）

報告書抄録

ふりがな	はいばらちょうないいせきはくつちょうさがいようほうこくしょ						
書名	榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 1996年度						
副書名							
卷次							
シリーズ名	榛原町文化財調査概要						
シリーズ番号	19						
編著者名	柳澤一宏						
編集機関	榛原町教育委員会						
所在地	〒633-0292 奈良県宇陀郡榛原町大字荻原164番地 TEL 0745-82-1301						
発行年月日	西暦 1998年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号		
福地陣屋跡	奈良県宇陀郡榛原町 大字福地178番地の1	29383		34度 31分 47秒	135度 58分 07秒	1997・3・7 1997・3・11 1997・3・31	27 個人住宅建設工事
沢遺跡	奈良県宇陀郡榛原町 大字沢980番地	29383		34度 29分 17秒	135度 58分 02秒	1997・1・27 1997・3・31	160 個人農地整備改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
福地陣屋跡	城館跡 遺物散布地	中世～近世 縄文時代～古墳時代	ピット	磨石、須恵器、土師器、瓦器、 瓦質土器、陶器、磁器、鉄釘			
沢遺跡	集落跡 遺物散布地	縄文時代～ 中世	溝、土坑、自然 地形	縄文土器、サヌカイト石核・剥 片、石斧、石鎌、弥生土器、須 恵器、土師器、瓦器など			

棟原町内遺跡発掘調査概要報告書 1996年度

棟原町文化財調査概要 19

1998年 3月31日 発行

編集
発行 棟原町教育委員会
奈良県宇陀郡棟原町大字荻原164番地

印刷 共同精版印刷株式会社
奈良市三条大路2丁目2番6号